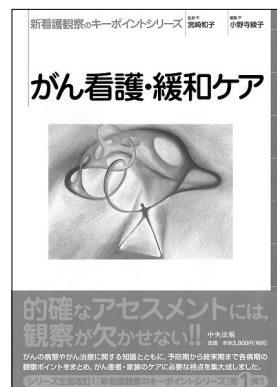


『新看護観察のキーポイントシリーズ がん看護・緩和ケア』

がん看護は観察に始まり 観察に終わる

監：宮崎和子 編：小野寺綾子／定価 3,990 円(本体 3,800 円 + 税 5%)
発行：中央法規／TEL：03-3379-3861



がん看護に限ったことではないが、看護過程を展開する際、最も大切なことはナースの五感を使って行う看護観察であることに異論はないであろう。本書の帯には、「がんの病期や治療に関する知識とともに予防期から終末期までの観察ポイントをまとめ、がん患者・家族のケアに必要な視点を集大成」したこと。また、観察の方法やコツ、観察したことの意味や危険の予測、対応すべきことなど、ナースにとって実践上の問題解決のヒントが満載されていると書かれてある。

筆者が本書を読み進めて思うのは、この帯に書かれていることが内容を如実に表わしていること、それも読めば読むほどその思いは強くなった。監修者や編集者がどのように観察をとらえているのかや、どのようにがん看護を実践してほしいと考えているかがわかってくるにつれ、執筆に協力された 30 数名の著者たちによくぞここまで整理されました。これらを参考にがん看護の実践に向けて努力して参ります、と言いたい心境に駆られた。

がん診断や治療方法が開発・発展するにつれてがん看護も確実に進歩している。従来の教科書や参考書では不親切で抽象的な記述が多いことを指摘され、ベテランと呼ばれる臨床で活躍されている方々に執筆を依頼されたとある。本書は、最新の知識と技術に裏打ちされていると感じた。

内容は大きく「がん看護の概論」「最新のがん治

療」「がん治療を受ける患者の観察」「症状コントロールを受ける患者の観察」の 4 部から構成されている。がん医療といえばがんの予防から診断されて治療を受け、長短の生存期を経て終末期を迎える。そして患者さんが亡くなられた後にご家族を癒すグリーフ期までを含めると、かなり長い期間のケアとなるが、本書はその要求に対してかなり応えることができるであろう。がん看護の大枠を捉えることができるので、どの学習者にとっても有益であると考えている。疾患や症状の全体像を振り返り忘れてならないことは「view point」、それぞれの疾患や症状に関して一頁に「観察フローチャート」として予防期、診断期、治療期、長期・生存期・再発期、終末期に分けて知識を整理してあるので知りたい情報のみならず全体像が把握できるように工夫されている。学生、新人、中堅さらに高度の実践をするナースであろうと隔たりなく全てのナースに利用できることは本書の大きなメリットであるように思える。このフローチャートと本文に設けてある「観察視点」も、実践をする際に大いに役立つものと思われる。さらに、読者にわかりやすいようにスキントラブルの写真や読みやすいような工夫が感じられ、読者に是非一読をすすめたい。本書はがん疾患や治療に関する内容以外、看護職者によって書かれていることもがん看護の発展を伺い知れるものと考えている。